

## 令和 2 年度大野市幼小接続推進について

## 教育総務課学校教育 G

## 1. これまでの大野市における幼小接続推進について

福井県教育委員会では、福井型 18 年教育の土台となる幼小接続のあり方について研究を進めている。大野市では、交流小学校区ごとに幼小接続連携推進カリキュラムを作成し、これまで実践を積み重ねてきた。

しかし、民間保育所・認定こども園、公立保育所、またそれらを所管する教育委員会、福祉こども課等があり、なかなか連携がスムーズに行われにくいところがある。

今年度実施している「教育環境に関する意見交換会」で保育所等に訪問した際に、園から「幼小連携は小学校との温度差を感じることもある。」という意見が挙がった。

以上のことから、大野市教育委員会と福祉こども課がパイプ役となり、大野っ子の健やかな育成に向けて、保育士・保育教諭と教職員の温度差をなくし、手と手を取り合って進めていけるような幼小接続をさらに推進していかなければならないと考える。

## 2. 新たな提案

## (1) 参観交流の充実

- ・連携している園に、小学校の研究授業日や学校公開日などを知らせ、保育士・保育教諭の参観を呼び掛ける。園からは、保護者参観日などを小学校に知らせ、教職員参観を呼び掛ける。
- ・参観の感想等をメモ等に残し、事後の研究協議会に活かしてもらう。

## (2) 幼小連絡協議会の実施

教育委員会、福祉こども課の合同主催で、年に 1 回（1 学期中）園長と小学校長による連絡協議会を開催する。幼小接続に関する研修を行ったり、新 1 年生の学校生活の様子や園での遊びを学校での学びにつなげる情報を交換し合ったりする。

## (3) 小学生保育体験の終了

（理由）

- ①参観交流の充実 2 の（1）に前述
- ②事前指導の困難さ

小学生の保育体験は、夏季休業中に単独で行っているため、事前指導の時間をとることが難しい。そのために、体験のめあてを十分に理解せず、主体的に行動できない子もいる。

- ③他の活動によるキャリア教育の促進

小学校では、総合的な学習の時間等に、地域に出かけ地域の方と触れ合う中で、様々な職業の様子について理解を深めている。

- ④中学生による保育体験

中学校では教育課程（家庭科）の中で保育体験が位置づけられている。

単元名「家族・家庭と子どもの成長」

幼児の心と体の発達や家族の役割、幼児の遊びを学んだ上で保育体験を行っている。

- ⑤幼小接続事業による園児と小学生の交流活動の定着

幼小接続事業の中で、各小学校区ごとに園児と児童の交流活動は定着している。設定されたカリキュラムの中で行う活動は、園児と児童と一緒に活動し、「共に考える」「共につくりあげる」といった学び合いが生まれる活動になっている。